

平成28年度 第1回  
寒河江市総合教育会議  
会 議 録

平成28年10月31日 開会

平成28年10月31日（月曜日）

平成28年度寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹	
寒河江市教育長	草苺和男	
寒河江市教育委員	菊地道子	松田彌生子
	鈴木淳一	國井晴彦

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	菅野英行	総務課課長補佐	小泉尚
学校教育課長	山田健二	管理主幹	佐藤肇
生涯学習課長	高林雅彦	スポーツ振興室長	鈴木隆
学校教育課課長補佐	國井協一	学校教育課課長補佐	白田純一

○ 日程

平成28年度 第1回総合教育会議日程  
平成28年10月31日（月曜日）

午前10時30分 開議  
市役所 議会会議室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

- (1) 本市の学力の状況とその取組について
- (2) 本市のいじめ問題の状況とその取組について
- (3) 少子化に対応した教育行政について

4 その他

5 閉会

## 1 開 会

### ○佐藤肇管理主幹

皆様、おはようございます。

ご案内の時間になりましたので、ただ今より平成28年度第1回寒河江市総合教育会議を開会いたします。

お手元の次第に従いまして、進めてまいります。2番のあいさつということで、佐藤市長よりごあいさつをいただきたいと思っております。

## 2 あいさつ

### ○佐藤洋樹市長

皆さん、おはようございます。今日は今年度第1回目の総合教育会議であります。

定期的な開催により今日的な教育の問題について、市長と教育委員会が相互に意見交換をしながら、連携して対処するための会議であります。そういう意味では日頃から連携をしているわけでありませぬけれども、あらためてそれを確認する意義ある会議と思っておりますので、よろしく願いいたします。

今日は三つのテーマ等について、議論をしていきたいと思っております。先般28日の新聞には、全国的ないじめの件数が載っておりましたが、山形県は人口千人当たりで認知件数が全国で3番目に多い状況でありますから、そういう意味で県全体の件数は、寒河江でも同じように多くなっているのではないかと考えられますし、またいじめを苦にしているんな事故や命を絶つ等ということが全国的にもありますので、事前に防ぐ最善の対応をしていくことが必要と思っております。そういう意味で有意義な総合教育会議にしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

### ○佐藤肇管理主幹

ありがとうございました。それでは、3の協議に入りますが、座長を佐藤市長よりお願い申し上げます。

### ○佐藤洋樹市長

それでは、早速協議に入りますが、(1)寒河江市の学力の状況とその取組について、説明をお願いします。

### ○山田健二学校教育課長

それでは、私の方から資料に基づきまして説明を申し上げます。資料の左上の方からNRT学力調査、これはほとんどが全国以上となっておりますが、大きく上回るまでには至っておりませぬ。教科では、国語に良好な状況が見えますけれども、若干の不安も見えます。

続きまして、その下の全国学力学習状況調査でございますが、中学校国語A・B以外は全国を下回っているということですが、全国との差は縮まる傾向にあります。ただ、算数・数学については依然として課題も見られております。学習の状況調査につきましては、自分の考えを書いたり説明したりする活用力、家庭生活等の学習状況調査については、ほぼ良好な状況が見えますけれども、平日の学習時間については課題も見られております。

この様な中で、ポイントとなる資料を真ん中に6点示し、これを学校とともに進めることであります。右側の方に、各学校での取組、アクションプランを作成したりするなどの取組を挙げております。中ほどに、市教育行政の取組といたしましては、学力向上推進事業、英語力育成事業、教育研究推進事業等施策を以って取り組んでいるところでございます。一番下、家庭との連携、基礎的な生活習慣が、学力と高い相関関係にあるという調査結果が出されておりますので、本市と致しましても『さがえっこの育み10か条』等の取組を、学校、家庭、地域が連携して進めるという中で、確かな学力の育成に結び付けていくという取り組みをしているところでございます。以上です。

○佐藤洋樹市長

県平均と市の傾向はどうなっていますか。

○山田健二学校教育課長

左中ほどの、全国学力・学習状況調査の方にも、国の平均正答率、それから県、そして本市と並べてございますが、県の傾向と本市は似ていると思われま。

○佐藤洋樹市長

県教育委員会としての取組はどうなっていますか。

○山田健二学校教育課長

各学校での取組という中に、各学校毎に学力向上アクションプランを作成するとか、県教育委員会が作成している単元末評価シート、スパイス問題シートを活用するなど、学力向上のための施策を県も打ち出しております。

○佐藤洋樹市長

皆さんの方から、何かありませんか。

○草薙和男教育長

はい。今課長から説明がありましたけれども、2・3年前の全国学テの結果よりも、全国との差が縮まっているという点では、学校でも探究型学習に力を入れ始めておりま

すので、そういう成果が少し出始めているのかなと見て取れると思います。

ただ、市全体はそうでありませけれども、全国にはまだ及ばない、若干下がっているということなので、いま頑張っていることを継続するとともに、学校毎の差についてテコ入れし、指導をきちんとして、全体的に寒河江市の学力を上げていくことが必要と、この結果を見て考えているところです。

○佐藤洋樹市長

具体的に、結果の悪い学校について特別の対応や促しはあるのですか。

○草薙和男教育長

はい。毎年若干違いはありますけれども、傾向としてはありますので、指導主事が訪問して、授業研究会等を行っております。そういう場面でいろいろ探究型の指導、学力向上のための指導等、また校長先生方が独自に学力向上の研修会を行っており、各校の取り組みや成果を発表する場面で市教委からもお願いしているところであり、成果が出始めていると思っています。

○佐藤洋樹市長

よく聞くのは、秋田が頑張っているとか、長野が昔から頑張っていると聞きますが、そういう意味で、秋田は何か特別な対応をやっているということですか。

○草薙和男教育長

全国学力テストが始まって十年になる訳ですが、秋田がトップになった時、家庭での学習というところとか、生活習慣がしっかりしているとか、大部そういうところがクローズアップされたというように記憶しています。生活リズムを含めた生活習慣ということですね。

○佐藤洋樹市長

結果は、市町村別にでるのですか。

○草薙和男教育長

市町村別には、発表されておられません。

○佐藤洋樹市長

結果がはっきりしなかったようですね。

○草薙和男教育長

結果について例示されましたが、市町村毎の数値は発表されておりません。  
全国を上回りたいとは思っております。

○佐藤洋樹市長

数学がちょっとね。

そのほか皆さんから何か、ご意見等ございましたらどうぞ

○松田彌生子委員

はい。この結果を見ると、少しずつ全国との差が縮まっているということで、日頃の先生方の指導の成果が上がってきているとみていいのではないかと私は見えています。ただやはり、寒河江市の学力向上は大きな課題なので、先程教育長さんからも生活習慣の話が出ましたが、学習状況調査の結果を見てみると、やはり6年生でも中学3年生でも平日のテレビを見ている時間が長く、家庭学習をきちんとしている児童生徒の数が少ないということが大きな課題と私は思います。ですから基本的な生活習慣の中でもきちんとした家庭学習の時間を確保するような取り組みや、各学校での宿題の量と質を高めるような作戦を、大きな目標にして取り組んでいかなければならないと思います。家に帰ってたった15分で勉強が終わるというのではなく、きちんと家に帰ってきて勉強することを学校と家庭で作りに上げていくことが、大事なのではないかと思います。

○草苺和男教育長

最近中学校でも、予習に力を入れていこうということで、その日あった授業との繋がりや、次の授業と結び付けていく予習に力を入れる、勿論復習もそうですが、そういうふうにして取り組んでいる学校も出始めているということなので、学習状況調査からみても、家庭学習のあり方については、学校だけでは出来ませんので、家庭と協力して取り組んでいかなければならないと思います。

○佐藤洋樹市長

読書の時間が短い、テレビも見すぎているとも言えない。何が原因なのか。部活でしようか。

○草苺和男教育長

先生方に聞くと部活があり、小学校で言えばスポ少とかテレビやゲーム等が生活の中心になりがちの子が多いとう話を聞きます。

○佐藤洋樹市長

部活動は、家庭の問題ではなく学校の問題にもなってきますね。その辺のバランスを

どのように取っていくかが問題と思います。子供たちも忙しくて大変でしょうね。

○國井晴彦委員

高校のPTAにも参加させていただいておりますが、そこで予備校や大学受験の状況、就職の状況の話など伺うのですが、有名な企業は入社試験の時に学歴比率があって、ある程度学んでいないと面接も受けられない。表向きはいつでもウェルカムだ、と言いながら差別化されている。大学の内定率はどうかというと、公立はともかく私立は半分以上が推薦で入ってくる。そういう状況になってくると、夢を実現するためには、ある程度一発逆転が効かない時代になってきているなと思いますので、そうなってくると、小学校、中学校である程度の位置にいて、しっかり基礎をやっていないと、将来自分の夢を実現できない社会になってきているなと思います。先日小学校の授業に行った時に、夢、あなた何になりたいですか。パイロットになりたいです。こういう職業に就きたいですとなって、ある程度の職業に対しては、小学校の時から意識して頑張るぞと言っていかないと、大学卒業してからでは頑張ってもその時点で貴方終わりですよ。夢を実現させるためには、そういうことをしっかりやらないと、親を含めスポ少、部活だけでなく、しっかりやらないと、間に合わないんですよ、ということをしかり教えていかないと、高校、大学なってから、俺の人生終わりだとなりかねない。非常にいやらしい時代になってきたなと感じます。そこら辺を、現実的にみんな、部活とかスポ少で忘れちゃって授業も疎かになってきているということなので、夢を実現するためには、しっかり伝えていかなければと思います。

○佐藤洋樹市長

そうですね。プロスポーツならばわかりますが、一般的な職業に就くについてそうならざるを得ないのですかね。

○國井晴彦委員

このあいだ、東桜学館を視察した時に、山形県にもお受験のような時代が来たなと非常に感じました。東根あたりの人の話を聞くと、周りの中学校PTA含め役員は皆そちらに集まって、周りの学校は人材を含め空洞化している。格差も増えてきているので、是非その辺も意識して、触れ合っていかなければと思っています。

○佐藤洋樹市長

どうですか。鈴木委員。

○鈴木淳一委員

やはり学習能力を上げるには、生活習慣だと私も思います。でも基本的な能力はある

と思うので、私が思うには計算はできるのに、文章を読み解く能力に苦手意識があるのかなというふうに見ています。それが読書の計画化に影響があるのかなということで、もう少し本を読む癖をつけないと、問題を克服できないのではないかと見えています。どうしても家庭の宿題等を見ると、最初の5つの計算問題はすらすらと行くのに、右側の下の問題はやれない。答えが出てこないという傾向が多いのかなという、苦手意識をなくすことを高めないと、これからの時代はいけないと思います。

○草苺和男教育長

ある中学校の国語の先生でしたが、生徒たちの様子を見てみると、家に帰って本を読むということが全くない。大人も親も本を読むということが中々ないという環境の中で育っていて、文字に触れるということが疎かになっているのではないかと。小学校から中学校に行くと文字が小さくなって、教科書自体、文章がいっぱい書いてあるわけですが、そういうところに非常に抵抗があったり、文字に親しむ生活は大事だなと、その先生から話を聞いて思いました。

○佐藤洋樹市長

どうですか。菊地委員。

○菊地道子委員

学力の話ですが、確かに家庭学習というのも、とても大切だと思います。やはり、ここに書いてあるように、一番大切なのは授業だと思います。知識を覚える形から探究型というように大きく舵がきられておりますが、先生方はまだ変化についていけないのではないかと、学校訪問に行かせていただいて感じます。今までやってきた授業を、それにプラスアルファして、子供たちが興味を引くとか、問題意識を持つというのは先生の質問の仕方がとっても大事だと思っています。もうちょっと子供を引き付けられるような授業をすることが、探究型には大事だと思います。探究型の問題は慣れも必要と思うので、その辺も時間をとって学校で積極的にしないと中々難しいのではないかと思います。先程校長先生の話もできましたけれど、学校は校長先生が変わると雰囲気がガラッと変わります。なので校長先生はすごく大事なキーマンです。学力にしても子供たちの全ての面にわたって、校長先生で変わるのを見てきているので、その辺は校長先生の指導力だなと思います。

○佐藤洋樹市長

探究型学習については、どうですか。

○草苺和男教育長



私もそのように思います。いろいろな学校を回らせてもらって、ベテランの先生方が多いのですが、どうしても昔ながらの授業から抜けきれない一斉授業とか、教え込む授業というか。教えることも大事と思いますが、教えて考えさせて自分なりの言葉で表現するとか、伝えるとか、そういう授業をもっともっと先生方自身が研究して実践していないと中々授業って変わらないなと思います。そういうところに力を入れて、これからも学校を指導していきたいと思います。

○佐藤洋樹市長

去年、高校入試問題を解いてみましたが、国語は積み重ねなので、ある程度解け、読解力としては子供の頃より良くなっていると思うので、80点位はとれましたが、算数・数学となると時間内で解けない問題が多かったので、山田課長から教科書をお借りしましたが、最後の部分難しい問題でちょっと解けないというか、一ひねり、二段階くらい上の設問があり、正に考える、考えさせるような、探究型のような設問があり、小学生も、中学生も解けないのではないかと、思うような設問が教科書にありましたけれど、ああいうところを先生方が丁寧に、元々の発想というか、考え方から教えてもらえれば興味が沸いてくる、子供が出てくるのかなと思います。でも難しいです。試験は。

○草苺和男教育長

3かける2は、6というような、それを覚えるのは簡単で、今まで力を入れてきたのですが、そうではなく何故そうなのかというところを、教え考えさせるような授業は大切だなと思います。

○佐藤洋樹市長

先生方の力量が、益々問われてくるということですかね。

○草苺和男教育長

そういうことだと思います。

○佐藤洋樹市長

それでは次の議題、いじめ問題の状況とその取組について、お願いをしたいと思います。

○山田健二学校教育課長

それではわたくしの方から資料の説明をさせていただきます。その後、寒河江小学校の教頭先生に、学校における説明をお願いしておりますので、その流れで説明をさせていただきます。まず資料をご覧くださいと思います。

資料左上、条例化に向けた経緯でございますが、まず国の方で、いじめ防止対策推進法が、平成25年9月に定められております。また山形県でも条例、そして基本方針を策定いたしております。寒河江市では、平成26年に基本方針を定めて対応してまいりましたけれども、更にきめの細やかな対応を具体的に進める必要があるということで、平成28年3月に、寒河江市では条例化を図っております。これに基づきまして、連絡協議会の他に、弁護士さん等の学識経験者6名による専門委員会も常設ということで、9月の末に第2回目を開かせていただいたという流れがございます。

左の下、いじめ問題に係る児童生徒の実態でございますが、本年度の1学期調査を分析しましたところ、積極的に認知する傾向が強まっている、ということが見えます。また男女での差異が明確ではないともありますが、冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われるなど、全国的な傾向と共通しておりますけれども、ここが最も多い等が示されております。これに対して学校での取組を勿論しております。法に基づきまして、各学校でいじめ防止計画を策定いたしまして、対策の組織を設置して取り組んでおります。そのような結果、積極的に認知し必ず解消するという意識の高まりであり、児童生徒が主体となった取り組みにも推進が図られております。未然防止、早期発見、早期対応の工夫や努力が行われております。また道徳教育等の充実がすすんでいることがあります。具体的には後程、寒河江小学校の事例を資料に基づきましてご説明をお願いしたいと思います。

一番下には、これらを支える動きとして、学校、家庭、地域と行政が連携してとりくむこと、さがえっこの育み10か条の推進で、いじめの防止を進めておりますし、QUアンケートも進めております。

それではここで寒河江小学校さんの取組を生徒指導担当の先生からご紹介を戴きたいと思っております。

#### ○小関広明寒河江小学校教頭

おはようございます。いつもお世話になっております、寒河江小学校教頭の小関広明と申します。どうぞよろしく願いいたします。座って失礼いたします。

それでは、私から本校の取り組みについてご説明申し上げます。時間も限られておりますので、5つに絞って本校の取り組みを紹介させていただきます。

まず、課長からもお話ありました、いじめ防止のための組織について、ご説明申し上げます。平成25年に定められた、いじめ防止対策推進法第22条によりまして、本校でもいじめの防止等の対策のための組織を作り取り組んでおります。昨年度までは、教育相談委員会を兼ねておりましたが、より特化して取り組んでいくことが必要ではないかとのことから、今年度から「いじめ防止対策委員会」を立ち上げました。資料の中程にございます。事案によりましては、教育委員会や外部組織とも連携しながら取り組んでいくことにしております。

次に、計画について説明申し上げます。資料の年間計画をご覧ください。いじめ防止の

ためには、「いじめをしてはいけない」という指導や、アンケートをとる、ということも勿論大切ではありますが、日頃の教育活動全体を通じて子どもの心を育てていくことが最も大切なことであると考えます。そこで、今年度は、これまでも学校で取り組んでいる活動の1つ1つをいじめ防止という観点から見直して、行動計画を作ることにしました。それが、この計画です。例えば、表の一番左にある縦割り班遊び、などは異学年交流の1つとしてこれまでも行っておりますが、これをいじめ防止という観点から、「互いを思いやる心や助け合う心を育てていく」という意識を持って指導にあたっていくことを確認しました。また、先週行った「チャレンジ!アウトメディア」でも、内容はテレビやインターネットから離れて生活を見直そうという活動になりますが、この活動でもネットモラルに触れながら、SNSなどメディアとの適切な関わりという点からいじめの未然防止に努めております。この計画により、年間を通して計画的に指導すると共に、教師が今何をしなければならないかを共通に持って指導に当たることができればと考えております。まだまだ十分とは言えませんが、課題と成果を確認しながら充実したものにしていきたいと考えております。

次に、児童への具体的な取り組みの1つとして、「あのねカード」について紹介します。資料の右の方に載せてあるものです。いじめ問題の解決では、いかに児童の悩みをキャッチし、早期に対応することが大切であると考えます。県ですすめている年間2回の全校アンケートは勿論本校でも行っておりますが、それとは別に、いつでも子どもが心を開けるようにしたものが「あのねカード」です。児童が悩んでいること、怒っていること、うれしいこと、頑張っていることを、先生に「あのね・・・」と教えられるようにした、児童の悩みを早期に発見するための手立てです。各クラスに常備しておき、クラスの実態に応じていつでも活用できるようにしております。これまでも、それぞれの担任で活用されており、いじめの訴えなども把握することができております。

ただ、アンケートやこうしたカードを用いながらも、もっとも大事なものは、児童に何か困りごとがあった時に、すぐ親御さんや先生に相談できるような人間関係をつくっておくことだということも認識しながら取り組んでおります。

次に、情報の共有について紹介します。校内の状況について、教員が情報を共有し、一人の教員だけが問題をかかえるのではなく、全員で指導にあたることが大事であると考えます。本校の場合、教職員数が39名と大人数でありますので、情報を共有するのがなかなか難しい点があります。学年毎にファイルをつくり、いつでも職員が見ることができるようにはしておりますが、情報の共有という点では十分ではありませんでした。昨年度の反省で、他学年の状況がなかなか伝わりにくいということもあげられており、今年度は、職員室内メールの活用を行っております。各学級の事案については、すぐに学年主任と生徒指導主任、教頭、校長に伝えることとしていますが、同時に、生徒指導主任が校内メールを活用し、職員全員に周知するようにしております。これは、いじめに関する事案のみならず、生徒指導上の問題なども同様に行っております。このことに

より、一人一人の児童を全員の目で見守っていくことにつながっております。

最後に、児童が主体となった取り組みについて紹介します。

本校では、先ほどの行動計画の説明でも申し上げましたように、常日頃の活動において、いじめ防止の視点を持って取り組んでいくこととしています。資料の右中ほどに、その一部を載せていただいておりますが、「あいさつ運動」や、親切にしてもらった人に感謝の気持ちを書き送る「ありがとうカード」、また、年間6回計画している、縦割り班で遊ぶ「なかよし集会」などを通して、人に感謝し、他を思いやる心の醸成を図っております。このような活動を通して、本校ではいじめ問題に取り組んでおります。

簡単ではありますが、以上で、本校の取り組みについての説明を終わります。

ありがとうございました。

○佐藤洋樹市長

教頭先生に質問をしてもいいのですか。

○草薙和男教育長

あのねカードというのは、例えば具体的には、どのような事柄が子供たちから出てくるのですか。

○小関広明寒河江小学校教頭

子供たちの人間同士の関係で、誰々さんが誰々さんのことを、こんな風に言ってるよ、と担任に教えてくれたりしています。一斉に取ったりもするのですが、自分で取って来て書いて先生に渡すこともあります。

○佐藤洋樹市長

どうも、ありがとうございました。

( 小関広明寒河江小学校教頭、会議室より退席 )

寒河江市のいじめの認知件数は増えているのでしょうかね。

○草薙和男教育長

今年の1学期の集計では増えております。

○佐藤洋樹市長

それは必ずしも悪いことではないということですか。

○草薙和男教育長

そうですね。認知件数ですので、悪いことではないですが、でも多いことがいい訳で

もありません。ただ中身的には冷やかしか悪口、嫌なことを言われる等というのが半数位で軽いといえば軽いものが認知されて報告があります。

○佐藤洋樹市長

冷やかしかもいじめの認知件数に入るのですか。

○草苺和男教育長

そういうように規定されています。

○佐藤洋樹市長

認知件数には基本的に何でも入るのですね。

○草苺和男教育長

嫌な思いをさせる場合も、いじめの認知件数に入るということですので。

○佐藤洋樹市長

学力と同じように、学校毎に見ていくと、傾向とかあるのですか。それとも大体平均的ですか。

○草苺和男教育長

平均的ではなくて、学校毎に違いがありますし、それからその年によっても随分違いがありますので、傾向というのは学校には余り見られません。多い年もあれば、少ない年もある。あるいは、多い学校もあれば全くない学校もある。そういう状態です。

○佐藤洋樹市長

その原因は分からないということですか。

○草苺和男教育長

認知件数ですので。

○佐藤洋樹市長

いわゆる問題児が卒業するとかですか。

○草苺和男教育長

そういうことではないと思います。

○佐藤洋樹市長

冷やかしてではなく、ある程度深刻な問題もある訳でしょうね。

○草苺和男教育長

ないことはないですが、やっぱり心配されることもございましたので、学校ですぐに対処していただいたという事例もございました。

○佐藤洋樹市長

中々こういう問題は、意外な結果が出てから判別するというのは好ましくない例もあるので、どのようにしたらいいのでしょうか。

○草苺和男教育長

大変難しいところもありますが、寒河江小学校での話もありましたが、先生方がそういういじめを、見逃さないという意識が大切だなと思いますし、アンテナを高く掲げて、異常、異変をキャッチすることが大事なことだなというように思います。先生たちも中々色々忙しいところがあるので、子供と向き合う時間が足りないとよく言われますけれども、頑張って子供の状況を見て行かないといけないなと思います。

○佐藤洋樹市長

必ず後でいろいろ検証され、情報は発信していたきらいがあったことが、後でわかるというようなこともありますね。

○草苺和男教育長

サインを送っていたにも関わらず、そこを見逃してしまうとよく言われます。

○佐藤洋樹市長

担任の先生は勿論でしょうけれども、一人よりは複数の視点で、これはちょっとおかしいのではないか、というような視点があればと思いますが。

○草苺和男教育長

学年の先生達が複数で見るとか、中学校でいえば担任の先生も教科の先生も部活の先生もと言うように、複数で見て行くようにしているのですが。

○佐藤洋樹市長

山形県が全国的にも、千人当たりの件数が多いというのは、どのような理由ですか。

○草薙和男教育長

よく新聞にも書いてありますけれども、先生たちが小さいいじめも見逃さないように認知して行こう、という気持ちの表れだと言われますし、少ない県は見逃しているのではないかとよく言われており、文科省も指導に入ると言っておりましたけれども、多いのがいいのか悪いのかも、ちょっと微妙なところがあります。いじめを見逃さないということでは、効果的だと思います。

○佐藤洋樹市長

こういうデータが最近出来たということですか。

○草薙和男教育長

国の指導もあって、小さなことでも、とにかく認知して行こうとなって、急増しているところもあります。

○佐藤洋樹市長

昔はもっと悪質な、故意的なケースがあったような気がしますが。

○草薙和男教育長

無いことはないでしょうけれど、あまりそんなことはクローズアップされませんでした。

○佐藤洋樹市長

皆さん。どうですか。

○國井晴彦委員

先日、ある中学校の校長先生とお話をして、いじめに関しては小学校、中学校、高校は手厚い条例とかで守ろうという動きがあると思うのですが、結局その子供たちも将来社会に出ていくわけで、社会に出て行った時にいじめがないとか、嫌がらせがないとか、必ずある訳ですが結局その時に、その子供たちはどうなるんでしょうねと、校長先生に聞いたら、たぶん自殺するでしょうねとのこと。教育現場でもそう感じているということは、やはり守ってあげるだけではなくて、いじめられた時にある程度耐えられるような、自分で身を守っていくということも教えて行かないと、小学校、中学校では大丈夫だったけれども、社会に出たらバンバン自殺するようでは教育として違ってくると思います。そういうところを頑張れ精神力を、何とか伝えられないものかと思います。

○佐藤洋樹市長

遅くないとね。遅しくあってもほしいね。

○草苺和男教育長

私もそう思います。やはり耐える力というか、克服出来る力というか、そういう人を育てていくのが大事なことだなと思います。

○佐藤洋樹市長

教育の中でどうして行ったらいいでしょうね。

○草苺和男教育長

困難なことからすぐ逃げてしまうという弱さみたいな傾向は、子供たちにある、避けたいと言われていて、楽な方に行ってしまうということではなしに、多少の困難も、めげずに失敗をしながらも、頑張っていけるような経験というものも学校の中で努力していかなければならないなと思います。

○佐藤洋樹市長

今の学校生活で怒られるということはないですか。

○草苺和男教育長

あります。

○菊地道子委員

そう言った教育は、どちらかというとい前は家庭で受け持つべき分野だったんですね。それが家庭では、そういう力を育てることが、今の社会状況では出来なくなっているんです。本当は小さい時にビシッと怒るなりなんなりして、我慢する力を付けることは家庭でやってきたと思いますが、それが出来なくなっている時に、学校で我慢する力を付けるというのはどう時につけるのですか。社会全体が家事でも何でもボタン一つで済むようになっていきますし、子供にさせる仕事、家の手伝いが今はないんです。他の人でもそんなさせているようには思えないし、機械化されているし、どうしても子供はテレビを見るゲームをするので、我慢強い子を育てるといことは本当に難しいと思います。

○草苺和男教育長

学校でよくやってる、宿泊学習、研修は、ご飯を作るのに火起こしからやらせるとか、もちろん、泊る所にはゲームとかスマホとか、一切持ち込まない取り組みをさせて全く原始的な生活をできるだけさせてみよう工夫しているところもあります。



○菊地道子委員

子どもは、そういうつらい経験をさせると、嫌だったという経験として残る、知ってる子は羽黒山を下から登らせたなら、あれは最悪だった、もう二度としたくないという思いになっているんです。そこで我慢する力を育てるとするのは難しいです。

○松田彌生子委員

昔、家庭で負ってた教育を今学校でかなり負っているというところが多く見られるので、前から言われておりますけれども、学校ですべきことと家庭ですべきことに違いがあるんだということをいろんなところでいろんな人が声を上げて行くしかないのかなと思います。例えば幼稚園でも言う、保育所でも言う、学校でも言うことが必要だと思います。

○佐藤洋樹市長

今の皆さんの親にそういうことを求めても、なかなか現実的に難しいのではありませんか。それはそういう親を誰が育てたということでしょう。我々が育てたことになるのでしょうか。何がいけなかったのかですよ。

○菊地道子委員

便利は子供の教育に全然プラスにはならないですね。

○草苺和男教育長

便利で快適な生活を追求してきた、一つの結果であるかもしれませんね。

○佐藤洋樹市長

鈴木委員、何かありませんか。

○鈴木淳一委員

確かに、認知件数が上がっているということは、小さいものを認知したということで数値が上がったとわかってはいますが、だからと言っていじめの中身が酷いものではないという、それが寒河江市では冷やかし、悪口をいじめられたと感じる子が多いという傾向なのかな、といったことが心の弱さが、ちょっと遅しくないという方向なのかなと思います。ちょっとしたことで心が傷つくような子が多いということは、家庭での教育が疎かなのかなというような気もしています。ただいじめもその傾向にあるのですが、やはり中学1年生が多くて、2年生、3年生になるにつれて少なくなっていくという傾向があるので、それはいったい何かなと考えた時に、中学校は小学校が集まって成り立つわけで、大きい学校に小さい学校の子が入ってしまうと、対人関係、付き合い方が苦

手となって、もしかしたら中学校に入る前に、交流学校みたいな小学校に出向いて、一回経験させていくという様なやり方をして行けば、すんなり友達になっていけるのかなと思います。

○佐藤洋樹市長

ありがとうございました。

○松田彌生子委員

学校でいじめを見つけても、もちろんそうですが、学校で見えない子どもの人間関係でトラブルしているという所があったりするのが多いのではないかと。例えばスポ少でどうのこうのとか、やはり保護者と地域の方に何かあったら、とにかく学校にどんな小さなことでも、例えば下校中に、なんかあの3人、ちょっとおかしかったとか、そういう情報提供をどんな小さなことでもいいから教えてくださいということを学校だよりとか市報とかいろんな方法でとにかく学校に一報くださいという情報提供の啓蒙も必要ではないかと思えます。

○佐藤洋樹市長

寒河江小学校でも保護者との情報交換などをやっています。みんなでそういう芽を摘むとか、把握して事前の策を講ずることが必要だと思えます。

ありがとうございました。

それでは、続いて少子化に対応した教育行政についてです。

○山田健二学校教育課長

それでは資料の方を開いていただきたいと思えます。少子高齢化の傾向にあるということが社会的にも言われておりますけれども、本市の児童生徒数の推移について、表にしたものをお渡しいたしました。平成22年度から平成28年度まで、それから平成29年度以降は平成34年度までは推計でございます。一番下の段が合計でございますので、小中学校の児童生徒数の合計を見ますと、やはり本市もずっと少子化、児童数の減少傾向が続くことが今後も見込まれております。ただ一様にすべての学校が下がって行くかと言いますと、必ずしもそうではございません。例えば寒河江中部小学校などは、平成32年度からは若干増える可能性があることが、この推計では示されております。

ただ、寒河江小学校と寒河江中部小学校は区域外就学の数もございますので、そういうことを考えると、必ずしもこの数値だけですべてが捉えられることにはならないかと思えます。また減少傾向が続いているところを見ますと、中学校で言いますと陵西中学校が非常に生徒数が減ってきていることが、つまり陵西中学校学区の小学校も減ってい

くと連動している訳で、様々な面から児童生徒数の推移を見据えた対応が必要になってくると言う様に考えられると思います。以上です。

○佐藤洋樹市長

平成34年の小学校の数があまり減らないのは、去年生まれた人がそんなに減っていないということですか。

○山田健二学校教育課長

この推計の仕方は、現在の小学校の児童数は平成28年度の児童数から卒業生数を引いて、その後入学児童数を住民基本台帳から拾って、それで計算しております。ですの  
で数値的には、このようになるのでございますけれども、住民基本台帳の方が必ずそこに入るかどうかは、引っ越しとかいろんな面で数字が動くわけでございますので、必ずこの数になるとは言えませんが、出来るだけ正確に把握しようとするればこのような形になります。

○佐藤洋樹市長

結構、陵南も減っているんですね。

○草苺和男教育長

6年後は、400人を超えるくらい減る。柴橋、南部が減ることにももちろん関係あるわけですが。

○佐藤洋樹市長

幸生小学校はどうでしょうね。今住んでいる人で推計になっているのですよね。

なぜ申し上げたかという、今年教育基本計画を作ってもらったわけですが、今後10年の計画を立てているわけですが、その中のいろいろな取り組みをする際、児童生徒数の推移は避けて通れない問題の一つなので、そこら辺をきちんと予測をしながら、考え方を検討していく必要があります。ただ計画自体についても具体的などころまで記載していないのですが、今後10年で、必ず訪れることなので、教育委員の皆さんと我々行政が共通の認識をしながら、検討していく必要がある。

○草苺和男教育長

やはり10年間の計画と言えども、こういう資料を見ますと、放ってほっておけない問題なので、市の教育振興計画にありますように、あり方を検討していくということで、来年再来年辺りから、外部の有識者なども含めて、十分に検討していかなければならないなと思います。

○菊地道子委員

寒河江市の場合、少子化もちろんですが、それとともに建物の老朽化という点もあるので、そこを併せて本当に学校をどうしていくかを、10年先20年先を見据えて、考えていく必要があるのではないかと思います。学校の先生からも建物が古くてと言われますので。

○佐藤洋樹市長

学校の先生が言うのですか。先生は毎日ずっといるので、子供たちは6年いると卒業していなくなる。昔も古い校舎はあったが、6年とか3年しかいないので、そういうものかなと認識していました。いくつかの学校を統合した場合、常識的に新しい建物になります。でないとなまらないというか、最新の設備が整っている学校を建てないと保護者の皆さんが納得しないということがあります。その辺住民感情がありますね。新しくなるのだから合併はしょうがないかなと思うんでしょうね。

○菊地道子委員

小学校は、学級担任制なのでいくら小さくてもいいのですが、中学校はあまり小さいと先生の問題とか部活の問題とかでできます。

○佐藤洋樹市長

やはり、部活なんかいろいろ支障が出てますね。

○松田彌生子委員

将来の学校の在り方について、検討する時期に来ているのではないかと思います。こういう問題は、すごく長い時間がかかるので、来年度から少しずつ考えても十分だと思います。

○佐藤洋樹市長

地域の人にも不安を持っているので、無くなるのではないかと、統合とかの心配もあり、あるともないとも言えないことから今後について地域の人に理解を深めるという意味でも時間をかけて検討していく必要がある。

○草苺和男教育長

私も時々、児童生徒の減少により、将来どうなるのかについて、地域の人から言われることがある。

菊地委員がおっしゃった様に、小さいところは小さいなりに、いいところがあります。

幸生小学校は複式ですけれども、西村山郡でも複式になっているところがポツポツ出てきているのですが、大変なところもありますが、複式の良さもあります。きめ細やかな指導が出来るのかどうか。でもやはり、2つの学年を一人の先生が教えるわけですので、大変なことだとは思いますが、良さは認めつつも、やっぱり子供の学校生活とか、成長とかを考えた時に、どういう学校の在り方がいいのかというのは真剣に考える時期に来ているのかなと思います。

○國井晴彦委員

今日もNHKの朝の番組で、複式学級同士がインターネットで繋いで、いろいろ授業をお互い補完しあっていたのを見ましたが、そういうところにどんどんIT関連のお金を使って、そこで逆に大勢の学校より、学力が上がる仕組みを考えていけないのかなと思います。

○佐藤洋樹市長

部活とかは、いろいろ保護者の方が心配しているわけですが、合同で一緒にすること、現実的には出て来る訳でしょうね。そういうことを他のチームが認めているということですか。

○草薙和男教育長

認めていると思います。

○佐藤洋樹市長

そうすることで克服できますね。

○草薙和男教育長

小規模校同士が、あるいは大規模校と小規模校が一緒になって、一つのチームと認めるということになります。

○佐藤洋樹市長

部活がないから転居するとか聞くものですから。そのために、中々大変だなと思ってるところです。

○草薙和男教育長

部活について言うと、学校が小さくなると学級の数が減り、配置される先生がぐっと減るので、そこは部活担当複数制にしているのが普通なので、厳しいですね。

○菊地道子委員

教科の先生は、全部行き渡るのですか。

○草苺和男教育長

行き渡らないと思います。

○菊地道子委員

他の学校の先生がするということですか。

○草苺和男教育長

いえ。免許を持っている先生で賄えれば一番いいのですが、臨時の非常勤の先生を、美術の先生一人とか、週何回かとなるかと思います。

クラス数が少ないので、国語のほかに音楽もやるとか、そうなっていくと思います。免許がなければ特別免許、臨時免許状になるかと思います。

○佐藤洋樹市長

どこが少なくなってくるかは、大体傾向としてある程度予想できるので。

○草苺和男教育長

醍醐小学校なんかは、当然複式が出てきますし、幸生小学校は一ケタになりますし、三泉小学校辺りもですね。

○佐藤洋樹市長

続いてその他。何か皆様からありませんか。ないようであれば今日用意された議題は以上であります。ご意見を頂戴してありがとうございました。いろんな面で連携をしながら、よりよい教育、あるいは子供たちの健全な育成のために、知恵を絞りながら、取り組んでいきたいと思えますし、また11月・12月は新年度に向けた予算、取組をしていくと言う様になりますから、そういう意味で皆さんからご意見を出していただいて、私は、寒河江らしい教育はこういうのだと言えるものが欲しいなと思えます。そういったものを新年度に向けて出していただいて、すべてがいいのだ、というのわかりますが、良いものの中で、少しとがったところがあっても、更に良いのかなと思えますから、これからもよろしく願います。

○佐藤肇管理主幹

どうもありがとうございました。それでは協議の他のその他ということで、皆さんから何かありますでしょうか。なければ事務局の方から申しあげます。

○山田健二学校教育課長

それではレジメの方にも記載させていただきましたが、2回目の総合教育会議を2月に開催をさせていただきたい。今年度の総括、また次年度に向けた教育方針の在り方等についてのお話を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

5 閉 会

○佐藤肇管理主幹

大変ありがとうございました。以上を持ちまして第1回寒河江市総合教育会議を閉会いたします。大変ご苦勞様でございました。

12:02 終了